

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：

茨城県笠間市立稲田中学校

活動名：

コミュニティスクール稲田

～小中一貫教育の取組を生かして～

解決すべき課題：

一小一中の環境にあることから、子供たちは、固定された人間関係の中で9年間を過ごす。できる限り、子供たちの目を外に向け、地域とのかかわりを持たせることで、ふるさとを愛し、主体的に学ぶ、心豊かで健やかな児童生徒の育成を図った。

目標・方針：

- 小中の教職員が、互いの教育活動を理解し、よさを認め合いながら、それぞれの教育活動の活性化を図る。
- 小中の教職員が「義務教育9年間を通して子どもを育てる」という意識を共有し、9年間の共通し学習指導・生活指導を通して、教育活動の充実を目指す。
- 小中の教職員が小中一貫教育を進める中から、教育資源を見出し活用することで、安心して楽しく生活・学習できる環境作りを目指す。

活動内容：

- 研究組織(図1)を立ち上げ、小中一貫の教育活動(資料1)を実施
- 主な取組例
 - ①交流部会：ア 中学校教諭による小学校での図工・音楽の授業(例1)
 イ 小学校6年生が中学校で部活動体験(例2)
 ウ こども園を含めた小中合同避難訓練と合同引き渡し訓練(例3)
 - ②地域部会：ア 文化祭・三世代のついででの地域交流(例4)
 イ 地域へのボランティア活動(1・3運動)(例5)
 ウ 地域の人材を活用してのボランティア活動(例6)

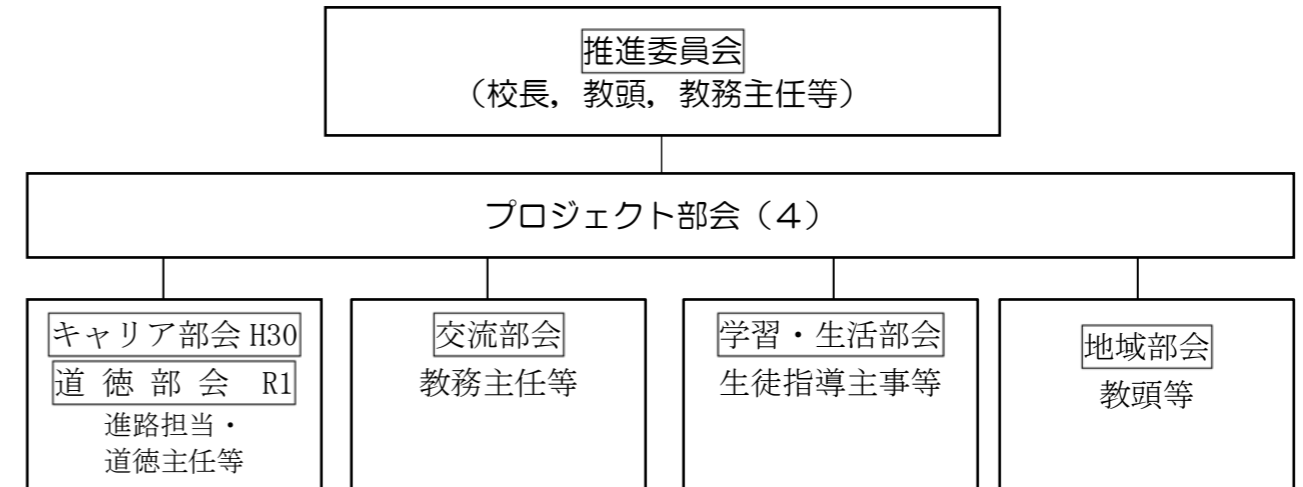
活動の成果：

平成30年、令和元年の2年間を通して、一小一中の良さを生かし、小中一貫教育の推進を図ることができた。その取組をベースに、令和2年度から、学校運営協議会を設置し、稲田小中コミュニティスクールを導入するに至った。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ①小学生がスムーズに中学校生活に移行できるよう、授業・部活・行事等での体験活動を重視したこと。
- ②コミュニティスクールを意識し、地域への貢献及び地域人材活用等、交流を図ったこと。
- ③小中のきまりを統一するために、学習スタイルや家庭学習の手引きのすり合わせを図ったこと。

(図1) 研究組織



(資料1) 小中一貫の教育活動

◇学びと育ちを「つなぐ」	◇指導を「そろえる」	◇みんなが「つどう」
<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業参観 ・キャリア教育・道徳教育・小中合同情報交換会 ・中学校教員による出前授業 ・学力調査の分析と課題の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のきまり ・学習スタイル「いな6」 ・「家庭学習の手引き」の活用 ・「読書タイム」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫コーナー ・小中作品交流会 ・「ようこそ先輩」の実施 合唱・陸上等 ・6年児童中学校部活体験

○主な取組例

- (例1) 中学校教諭による小学校での音楽の授業 (例2) 小学校6年生が中学校で部活動体験 (例3) こども園を含めた小中合同避難訓練と合同引き渡し訓練



【音楽のついでで発表する合唱の指導】

(例4) 文化祭・三世代のついででの地域交流



【中学校文化祭で披露する地域の三味線クラブ】

【部活動体験：弓道部】

(例5) 地域へのボランティア活動(1・3運動)



【毎週水曜、地域のごみを拾い分別】

【避難して整列する園児と小中学生】

(例6) 地域の人材を活用してのボランティア活動



【地域ボランティアを活用した星の観察】